

部会長：伊香賀俊治

(仮称)健康コミュニティ推進部会の活動方針(案)

1. 部会の目的

少子・高齢化、人口・世帯の減少、社会保障関連費の増大、環境負荷の増大は、中山間地域において先鋭的に進行している。このため、生涯健康・生涯現役を実現し、子供が健やかに成長する豊かな暮らしを実現できる住宅やコミュニティのあり方も、分散居住しておる中山間地域では、都市部とは異なる可能性がある。また、定年後の豊かな暮らしや子供が健やかに育つ環境を求める移住のあり方も話題になっている。

本部会では、健康負荷削減部会、健康増進部会、住宅設計部会と連携して、都市部と中山間地域それぞれに適した健康増進住宅の普及によってもたらされる健康コミュニティの諸効果の中長期評価手法を開発し、健康コミュニティの都市部モデルと中山間地域モデルを提案する。

2. 研究内容

(1) 健康コミュニティがもたらす諸効果の中長期評価手法の開発

健康コミュニティのあり方を検討するため、人口、世帯、保健、医療、福祉、教育、住宅などの地域毎の時系列統計データと既往研究を調査する。さらに健康増進住宅の普及によってもたらされる健康コミュニティの諸効果の中長期評価手法を開発する。

(2) 都市部における健康コミュニティモデルの検討

人口密度が高く、社会基盤が整備されている都市部では、主に集合住宅を対象として、生涯健康・生涯現役で、子供が健やかに育つ健康コミュニティモデルを検討する。

(3) 中山間地域における健康コミュニティモデルの検討

食料・木材生産、自然景観保全、治山治水、伝統文化継承を担う分散居住とならざるを得ない中山間地域では、主に戸建住宅を対象として、交通・物流、高度情報化、地産地消、保健・医療・福祉・教育などの諸課題を解決する健康コミュニティモデルを検討する。

3. 方法

(1) 文献調査、専門家からのレクチュア

(2) 健康コミュニティがもたらす諸効果の中長期評価手法の開発

(3) 都市部および中山間地域における健康コミュニティモデルの検討

4. アウトカム

(1) 健康コミュニティがもたらす諸効果の中長期評価手法の提案

(2) 都市部における健康コミュニティモデルの提案

(3) 中山間地域における健康コミュニティモデルの提案

5. 部会の委員構成案

伊香賀俊治(慶應義塾大学 教授) 部会長

部会長を中心として部会委員を構成する。

健康負荷削減部会、健康増進部会、住宅設計部会と連携して、

健康コミュニティがもたらす諸効果の中長期評価手法の開発



都市部の健康コミュニティモデル



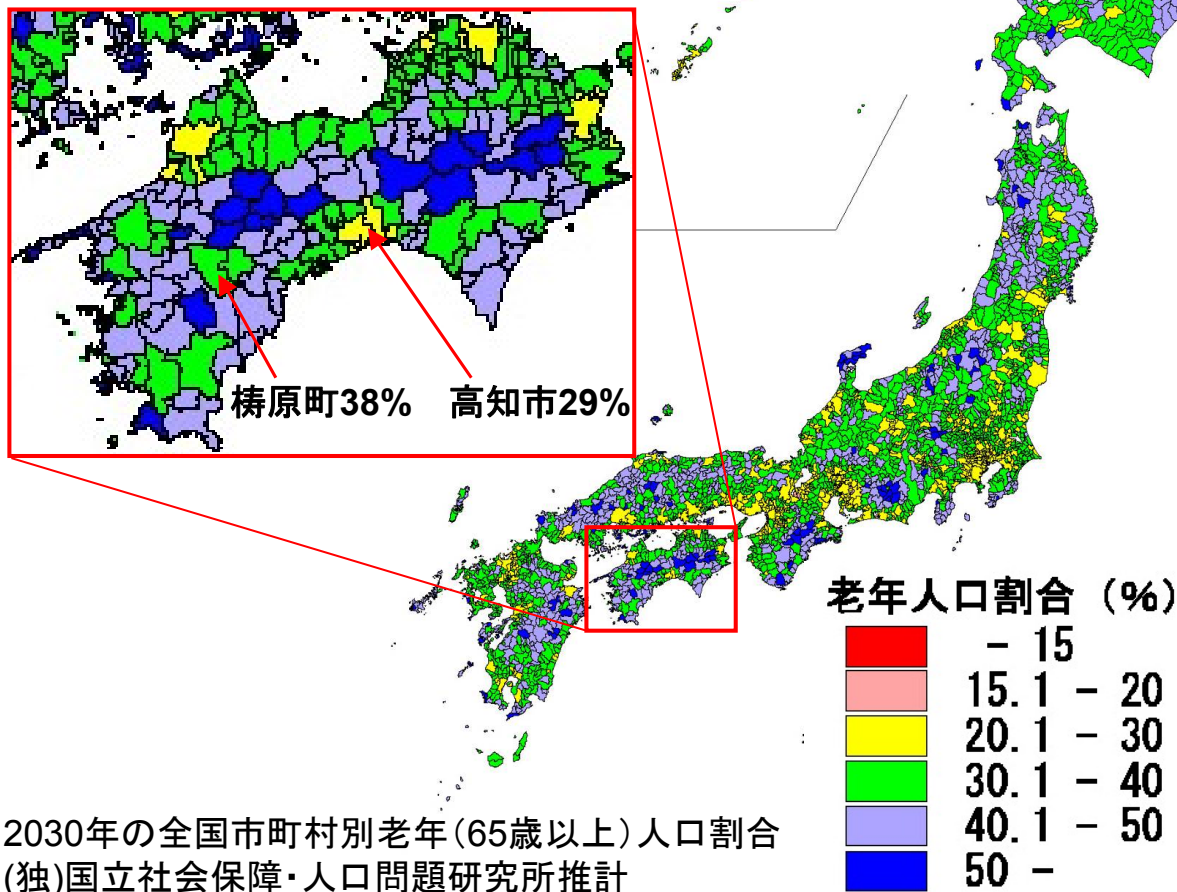
人口密度が高く、社会基盤が整備されている都市部では、主に集合住宅を対象として、生涯健康・生涯現役で子供が健やかに育つ健康コミュニティモデルを検討

中山間地域の健康コミュニティモデル



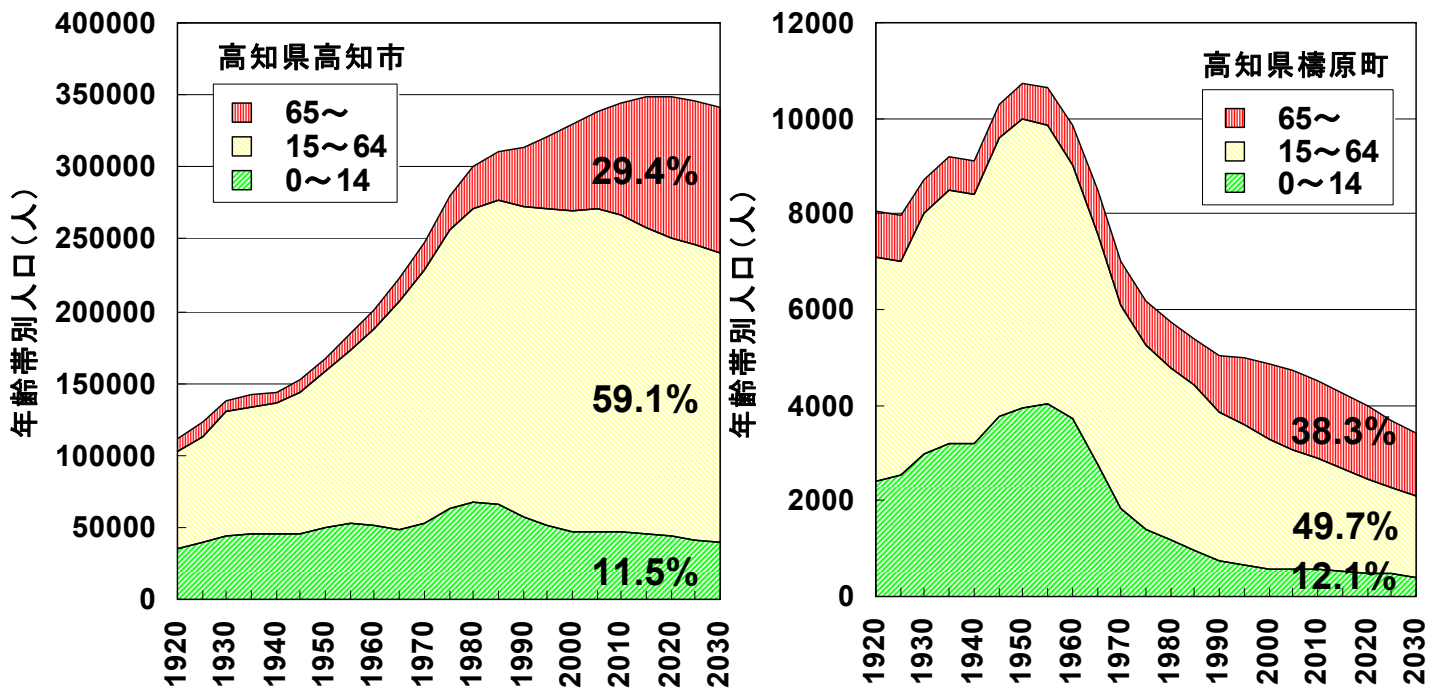
食料・木材生産、自然景観保全、治山治水、伝統文化継承を担う分散居住とならざるを得ない中山間地域では、主に戸建住宅を対象として検討

中山間地域における高齢化



Ikaga Lab. Keio University

中山間地域における過疎化・少子高齢化



都市部の人口変化の例

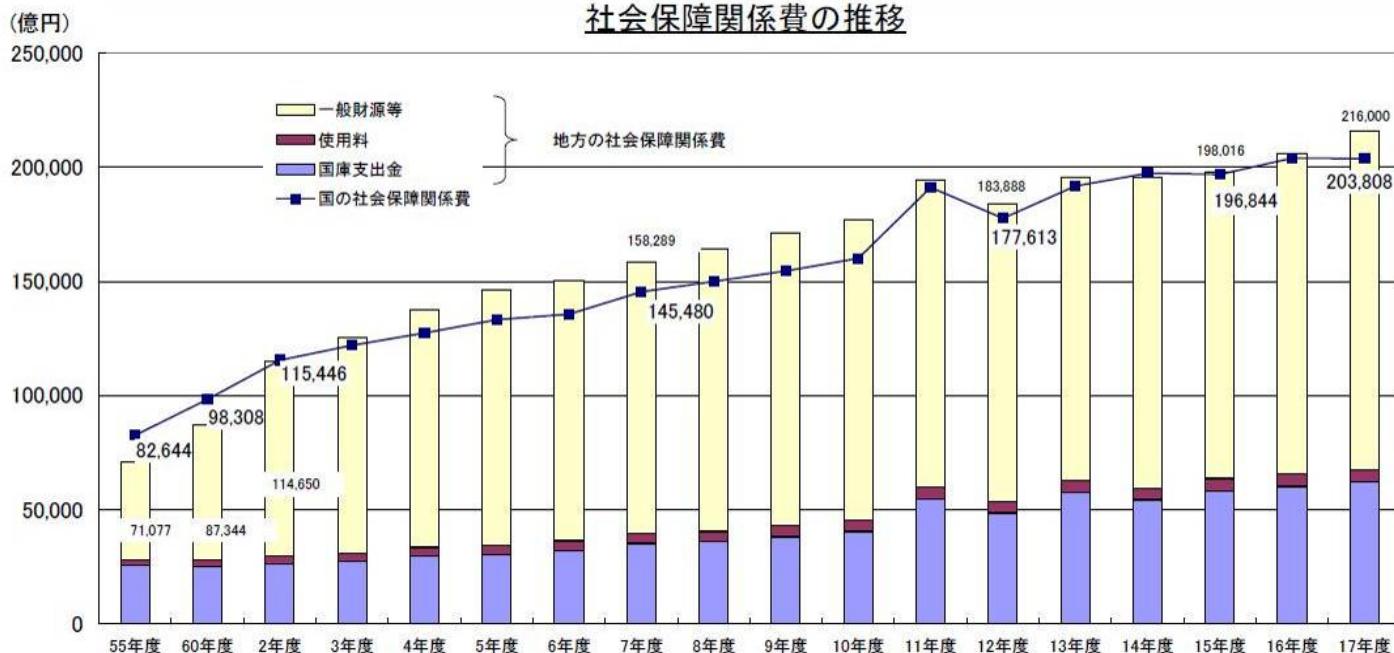
中山間地域の人口変化の例

(独)国立社会保障・人口問題研究所推計

Ikaga Lab. Keio University

年々増加する地方の社会保障関係費用

社会保障関係費の推移



(総務省 2005年)

老人医療費を含む社会保障関係の経費が年々増加 (H17:21.6兆円の見込み)

⇒今後も増加が見込まれ、地方財政をますます圧迫

求められる中山間地域の活性化



梶原の棚田

- ①食料や木材などの生産地
- ②景観保全・水源涵養機能の維持
- ③文化・伝統・コミュニティの継承



梶原に伝承される津野山神楽



地場産木材による梶原町総合庁舎、太陽光発電、地中熱利用などにより、LCCO₂は一般庁舎の半分、CASBEEでは最高のSランク半減